
バレット学園日記！！

ミロンド2

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バレット学園日記！－！

【Zマーク】

Z0420Z

【作者名】

//ロンド2

【あらすじ】

//ロンドの引き続きの//ロンド2！－！

色違いピカチュウと超人的なツタージャ達がおこす、四正学園での生活。

この学校ではスキルを育てるといったが…？

第4話 混合色（ミックスカラー）（前書き）

若干オリジナリティーが入っていますよ。

ラック「若干か？」

うん。…ところでバレットは？

ラック「あいつは…それよりこの作品1～3話目がみたいな人はバレット学園日記をどうぞ！」

あいつより宣伝かい！

ラック「ああ、そうや。」

第4話 混合色（ミックスカラー）

俺は今ラックと散歩中だ。…といつよつも連行に等しい。だつて荷物持ちだもん。

ラック「あー買つた買つた~」

バレット「それよりも早く帰ろつぜ。門限過ぎるや。」

俺達が通つている…というか住んでる学校は外出は自由だが…30には帰らなくてはいけないのだ。

ラック「んーそうだね。そろそろ戻りつ…

あれ？」

バレット「ん~どうした?」

ラックの田線の向こうには不良とその不良で囲まれてこむ…ヒコザル?

不良「おつかれ、兄ちゃん少しでいいんだ金くれ金!~」

ヒコザル「も、持つてません…」

不良「じゃあ金持つてこいや!~」

バレット「どうする? ラック」「めーらあ! 弱い者いじめすんなやあ!~」

あー…バカ…

不良1「おう? 誰だ? お前?」

ラック「ンタージャ。」

不良2「見りやわかるわ! んなこと!~」

不良3「名前はなんだあ?」

ラック「ラックだよ。ちなみにあそこのピカチュウが僕の友達バレット。」

バカああああああつつ!~!

不良4「おうおう兄ちゃんもこひつこや~」

ああ~…他人の振り作戦失敗…

バレット（おいーどうすんだよー！」）

ラック（ん？ぶちのめす。）

バレット（できんのかあ？）

ラック（まあまあここは僕にまかせて！）

不良1「こそそ何しとんじゃあ！！」

不良1、2、3、4は一気に襲いかかって来た。全員炎タイプじ
やん！！

バレット「ラック！危ない！！」

土煙がたつた。土煙が晴れると…

バレット「……………？」

そこには無傷のラックと倒れた4人の不良

バレット「ラック！大丈夫！？」

ラック「ん？ああ、大丈夫だよ。」

しかし…炎の攻撃は直撃だつたはず…

…！もしや…！

ラック「うん、スキル使ってみた。」

バレット「具体的にどんなの？」

ラック「タイプを換えるスキル。…んーどんな名前にしようかな…

…

なるほど。草タイプを水タイプにでもすれば効果は今ひとつだ。
それよりも

バレット「大丈夫？」

ヒコザル「うん、大丈夫。ありがとう、えーと…」

バレット「バレットだよ。」

ループ「ありがとう、バレット。あ、僕は

ループ。ところで…

バレット「ところで？」

ループ「もしかして四正学園の人？」

あ、四正学園つて俺達がすん（「Y

バレット「うん、どうしつるぶよるぶラック「混合色

↙／＼b↙＼rｐ↙（↙／＼rｐ↙＼rｔ↙＼ミツクスカラー↙／＼rｔ
↙＼rｐ↙）↙／＼rｐ↙＼rｕｂｙ↙で決まり！」

バレット「ああ、うん…えーとそれで？」

ループ「門限まであと10分ヽ（^○^）＼」

最後まで聞かず、無我夢中で走った。

学園に着いたのは門限5分後。めっちゃ怒られた…んだけど、ラッ

クはなぜか門限前に

帰つてたらしい。…おかしいだろ？！…

第4話 混合色（ミックスカラー）（後書き）

ラック「作者？…いなあ～じゃおわりだね。」

ちょ？いますけど待つて…あ…あ————— プツッ

第5話 「不幸に叩き落とす悪魔と幸運に導く天使」（トスト）の恐怖（前書き）

ラック「題名凝ってるね。」

いやーそんな感じじやん?

ラック「んー僕は天使の方かな~」

んまーそこは本文で!!

リース「俺も久しぶりだぜ!!!」

ラック「俺と作者（仮）の所を!」

：仮？

第5話 「不幸に叩き落とす悪魔と幸運に導く天使」（トスト）の恐怖

「ここは因正学園。ここの一・二では…

リース「あ～3日後テストだ。点数悪い奴は補習だからな。」

バレット「ちょっと待て…！」

リース「なんだ？変色鼠。」

バレット「鼠言うな！それより3日後つて

なんでそんなギリギリに…！」

リース「あ？連絡ミスだ。じゃあな」

リースは教室を出て行く。…すると

ハクア「ねえ。一緒にテスト勉強しない？僕、成績悪いし…」

バレット「え？あ、ああいいぜ。」

実は言うと俺は成績悪いんだか…

ハクア「よかつた。ラックも呼んだからーさん。ポケ寄れば文殊の知恵っていうし！」

…え？ラック？

バレット「ラック…呼んだの？」

ハクア「…うん、そうだけど？」

やばい。生きて還れそうにない！

ラックは成績は良い方…というか完璧だ。

だから一度ラックと一緒に勉強したことあるんだが…

バレット「じめん！やっぱ無理ーラック

「もう一度言つて」「らん？」

バレット「だから行けな…うおつ！」

ラック「行けないなら逝かせてやる。今死ぬかここで死ぬか…どっちがいい？」

強制連行￥（^○^）-

ラック「だから何故 $x=4$, $y=3$ なのに 56 になんだけ……」

ハクア「だつてやり方……」

ラック「-2×なら-4×4! 4×4すんな!」

俺達はラックの「暗闇に逃げ場なし」(きよひせにべんきよ)をさせられてる。

え? かつこ悪い? やつぱり?

ラック「こたつた言つてねえーではよおやらんかい……」

バレット「Yes I do!..」

俺は英語に取り掛かる。……えーと

“Did you studied English?”を訳せ? “えーと… didだから疑問系で過去系だろ…

Englishは英語…だから

“あなたは英語を勉強しましたか?”だな!

よーし! 楽勝! 次いくぞー!

“I just finished reading this book.”

はああああああつつつつ???

ラック「そんなのも訳せないのか?」

バレット「いや! 無理です!」

ラック「はあ… “just”は“たつた今”で

“finished”は“終わった”。だから

“私はたつた今この本を読み終えました”

おおお。でも…

バレット「これ… 習つてないよな。」

ハクア「うん。 そうだよね…」

ラック「おしゃべりはそこまでだ。 あはじめるや… 「これは地獄

絵図」(イッツ ヘル タイム)…」

ギヤアアアア…

結果はこうなった。

国語：56点
数学：48点
英語：62点
社会：65点
理科：87点
ポケ学：65点

順位：98人中82位

ラックは相変わらずオールパーフェクト。
ハクアは大体70点位だつたらしい。
そしてリースの最後の一言。
リース「80点以下補習な。今基準決めたけど。
オワタ￥（^○^）／」

第5話 「不幸に叩き落とす悪魔と幸運に導く天使」（トスト）の恐怖（後書き）

ラック「僕の“隠蔽計画”（パ・フェクト//ラージュプラン）に狂
いは無い！……
よしつ！終わり！！」

第6話 “楽しむも休むもあなた次第”（がくえんわ）の準備をしゆつ（前書き）

ラック「何かの説明みたいだな。」

作者「うーん、たしかに…」

ラック「あ！ちなみに四正学園の学園祭は

”敬遊祭”だよ。」

作者「最近、君ここ奪つてない？」

ラック「気のせいだよ。」

作者「いやーでも。」

ラック「気のせいだ。」

作者「でもね。」

ラック「気の？せ？い。」

作者「うーん。」

ラック「気のせいだつづつてんだる。」

作者「はい…。」

第6話 “楽しむも休むもあなた次第”（がくえんわ）の準備をしよう

これは、7月上旬のお話

リース「今度の日曜日に敬遊祭を行つ。ちなみにどこのクラスも出店をやる。出店でなんかやりたいやついるか?」

学園祭かあ～そんなにテンションあがら…

ラック&バレット除く全員「イヤアシッホウウウツツ！」

「！」

ああ…みんなハイテンション…

ラックはハイテンションじゃないけど…

リース「嬉しいのはわかつたから！なんか案はないか！？」

焼きそば！たこ焼き！かき氷！フランクフルト！…とみんな口々にいう。

リース「あー焼きそば3人、たこ焼き5人

フランクフルト6人、かき氷7人……」

リースは律儀に数えていく。

リース「よーし、俺の気分で焼きそばだ

あんたの気分かよつ！みんなつっこむ。

…あーいやだ。このテンション

リース「おう？バレットとラック…ラック寝てんのか…みんなのテンションについていけないのかあ～？」

俺は何も言わない。

リース「何も言わないつて事は図星かあ

みんなが俺を笑う。

ラック「…因数分解…むにゃむにゃ…」

こいつはどんな夢をみてんのか…

ラック「テメーらうぜえんだよ。学園祭の時に限つてテンション上がりやがって。つるさいといふやつぞ…むにゃむにゃ」

今こいつ自分の意見言わなかつた?

ラック「とか焼きそば焼きそば簡単に言つけどあれソースの加減とか色々めんどいんだぞ？その分かき氷は冷やしてくれるからいいけど…むにやむにや。」

リース「じゃあかき氷でいいな。」

こいつ自分がやりたいものにかえやがった

ラック「これが僕の技さ」

ふう…やつぱりな…

リース「じゃあお前ら二人パトロール係な

はい、決定。」

バレット「あ！？おい、勝手にきめんなよ…今回初めてのセ

リフ！？」

リース「話聞いてないお前が悪い。…意味不明な事言つてんじゃねえよ！」

ラック「寝るんで静かにしてね。」

バレット／リース「…はい。」

（次の日）

ナムル「ほら！早く何味かきめるぞ！」

ループ「レモン味とかいいなあ。」

ラック「ラック（運）次第の味。」

ナムル「怖つ！でも面白そう！採用！」

ラック「…」

ナムル「…つて寝言つー？」

ループ「莓ミルク…」

ラック「飽和砂糖水をかけたり、メロンシロップかけたり、硝酸化

ナトリウムかけたりしようよ。」

ナムル「硝酸化ナトリウムは却下あ！」

俺？バレットだよ。…………つまんね。」

To be continued.

第6話 “楽しむも休むもあなた次第”（がくえんわ）の準備をしよつ（後書き）

ラック「行事とかでテンション上がる奴に殺意がわいた事があるよ。」

作者「わかる、わかる。△△コンクールとかでリーダーじゃないのに仕切る奴ね。…つていない。」

第7話 “考える葦”（にんげん）の世界へ！？（前書き）

ラック「にゅ。なるほど。“人間は考える葦”から考えたんだね。」

作者「うん。色々候補はあつたんだけど」

ラック「いいんじゃない？でははじまり、はじまり～」

第7話 “考える章”（にんげん）の世界へ！？

「」は四正学園。…の1・2は今は理科をしてるのだが…
デンリュウ「でだな、俺は作った訳よ。」

理科の担当ウイル先生は無駄話を続ける。

ウイル「“異空間移動装置”（パラレルワープ）
を。いやーきつかつたぜ。」

バレット「先生、どんなやつなんすか？」

その～“異空間移動装置”ってのは。」

ウイル「具体的には、こことは違う世界に
行けるのさ。…んで誰か実験体3人いねーか？」
俺は考える。本当にそんな事が出来るのか

…でも本当だとすれば…

ラック／バレット／ハクア「はい！（はい）
俺（僕）がいきたいですっ！！」

ウイル「よーし、じゃあ明日行くからな。
準備しどけよ。」

ハクア「ところでどの世界にいくんですか？」

ウイル「秘密」

あー楽しみだな…

ウイル「ちなみにリースも行くぞ。」

…やめよっかな

次の日…

バレット「行ってくるぞ…」

生徒1「死ぬなよwww?」

バレット「不吉なこといつなー！」

ラック「ねえ、早く行こうぜ～」

ウイル「んじゃいくぞ！スイッチON！」

キウイ「…ボン！」

バレット「なんか変な音した！」

チュン！！

ラック「おーい。起きる。」

バレット「…ん、ここは？」

ラック「どうやら人間界のようだよ。あとハクアとリースと別れち
まつた。」

バレット「はあ！？人間界！？」

ラック「うん。さっき俺らと同じポケモンと人間が一緒にいたもん。

」

バレット「お前…誰だ？」

ラック「え？どうしたの？」

バレット「てめー誰だ！？」カミナリ！

雷が落ちる。

ラック？「おやおや…ばれてしましたか…。どうしてわかつた
んですね？」

バレット「一人称だ。ラックは一度も自分を“俺”と言った事はな
い。本人曰わく“偉そう”だからってよ。」

モン「チエツ、あと少しだったのに。俺はメタモンのモン。おーい
ラック、ばれちゃつた。」

ラック「えー。早いよ。」

バレット「ラック！…どうゆうことだ…」

ラック「…この世界では氣を抜くな。そりゅうことだよ。それより
ハクアを探しに…」

あつ！ハクアとリース探しにいくぞ。」
こいつ完璧忘れてたな。

>ハクア視点<

はあ～…よりによつてなんで先生となんだか…。ラックとバレット
とは別れちゃつたし。先生は様子見てくるつて行つちまつたし。
ハクア「本当に不幸だな…先生は信用したらるくなことはおきない
よ…」

リース「誰を信用したらるくなことがおきないつて？」

ハクア「うあう…！」

ま、またこの人は！

ハクア「それより、どうでした？」

リース「…人間界だな。人間が沢山といる…気持ち悪いくらいな。

「人間…本で読んだ事はあるけど、まさか人間がいる世界に来てしま
うとは…

ハクアはため息をつく。

バレットと違う所で一緒に

ハクア／バレット「はあ～…」

To be continued

第7話 “考える章”（にんげん）の世界へ！？（後書き）

ラック「人間界編はまだまだ続くぜーーー！」

第8話 “考える草”と“未知な生き物”（ポケモン）の絆（前書き）

ラック「人間界編はいつまでやる気だ？」

作者「んーあと3話くらいかな～」

モン「騙されたな！？」

作者「あ、畜生……とでもいうと思つたか！？」

ラック「どうだ！“絶対権限”（わくしゃ）にかわってみたぞ！」

モン「なー騙しを騙しで返すとは……。」

作者「…楽しそうだね。」

第8話 “考える草”と“未知な生き物”（ポケモン）の絆

バレット「んで…」これからどうすんだ?」

ラック「“異空間移動装置”も壊れちゃったし…」

モン「それなら空間を司るパルキアに頼んだらどうですか?」

フレンドリーな方ですよ。」

ラック「なるほど。… でそいつがいる場所は?」

モン「転換山… あ~テンガン山です。」

バレット「それより、ハクア達探してからな。」

ラック「…………!! リースの声!!」

ラックはすごい速さで走り出した。

バレット「お、おこ! までよ…」

>ハクア視点へ

ハクア「どうします?」のあと。

リース「まずラック達と合流だな。」ズトド

ハクア「…? ってうわあ…」

リース「ラックとバレットか…。ってラックが2人!??」

モン「あ、メタモンのモンです。」

ハクア「あ~よかつた。どうしてわかったの?」

ラック「声」

皆さんには簡単に言わないでね

すると、そこへ…

人「うお~! うわポケモンだらけじゃん!」

ラック「う~ 人間!」

リース「こ~はおれ…」

人「いけ! トロピウス!!」

リース「じゃなくてみんなでいい!」

ラック「でもさトロピウスって草? 飛行でしょ? なら… バレット!」

君に決めた!」

バレット「やけんなあ……」

雷からのボルテッカー！！

バレット「くらえ！“電気爆発”（ボルトフレア）……」

火花が散つてバレットは炎に包まれる。

トロピウス「……」

トロピウスに直撃！！

ラック「草に炎で飛行に電気つて6倍じやん。すげーすげー。」

ハクア「すごい……」

人「な、なんなんだ！今の技は……！」

ラック「お、いいぐあいに煙たつてんじやん。逃げるよ。……っとそのまえに。」

リーフストームからのリーフブレードー

ラック「“木の葉の凶器”（リーフカッター）」

人「ぐあつ……」

ラック「今だ！逃げるぞ……！」

24

ハクア「はあ……はあ……ど、どこまでにげたんだろう。」

モン「……おう運がよかつたな。ここはテンガン山だ。」

リース「何が運いいんだ？」

バレット「ここに空間を司る……えつと……」

ラック「パルキアにあって元の世界に戻る。ってことだよ。」

ハクア「なるほど……」

モン「でもよ……。今このテンガン山には強敵がたんまりといるから、俺はここでぬけるよ。頑張れよ。」

ラック「強敵か、楽しみだな。」

バレット「そうだな……」

ハクア「うー……」

リース「じゃあこへぞ、お前ら。」

To
be
con-
tinued

第8話 “考える革”と“未知な生き物”（ポケモン）の絆（後書き）

ラック「今回セリフばかりだね」

作者「まあね。」

モン「俺はもう出番なしか？」

第9話 “諸刃の剣”（ネバーハンドソード）（前書き）

ラック「タジヤタジヤタージャ」

作者「！？」

ラック「タジヤ？タジヤタージャ？」

作者「え、えーと…」

ラック「笑える。」

作者「普通に話せよ…。」

第9話 “諸刃の剣”（ネバーハンドソード）

ラック「モンによるとやつの柱つて所にいるらしいぜ。」

バレット「まあとりあえず上に上にいこうぜ。」

俺達は歩きはじめる。すると…

?「グギアアア…！」

ハクア「何の音！？」

リース「…どうやら強敵らしいな。」

リースの目線の先にはバクフーンがいた。

バクフーン「なんで！俺は強いのに…！」

殺してやる…！あんなトレーナー…？

誰だ、お前ら。今機嫌が悪いんだ。失せろ…！」火炎放射…！

リースは一步手前に出る

リース「炎タイプなら俺が…」

ハクア「いや！僕がやる…！」

ハクアの火炎放射！

火炎放射と火炎放射は激突し、相殺した。

ハクア「僕も守られてばっかじじゃ駄目だ…！いくぞ…！」

守るからの火炎放射からの体当たり…！」

ハクア“炎のツララ”（フレイムダイヤモンド）…！

しかし効果は今一つだ。

バクフーン「…なんだ？その攻撃？なまちょろい攻撃で俺を倒せると思うな！」

スキル発動…！

ラック「なつ…？こっちの世界でもあんのかよ…？」

フレアードライブ…！ハクアに直撃…！

バレット「ハクア…？」

ハクアはかすつた程度だった。…しかし

ハクア「うつ！？」

リース「麻痺状態！？なぜだ！？」

ラック「スキルだろう。」

バクフーン「正解だ。俺の

バクフーンー正解だ。俺の“7つの悪魔”（アルティツコサタン）は麻痺、毒、火傷、

凍り、混乱、眠り、たまに瀕死、攻撃に当たると必ず状態異常になる。……そのせいで俺は親に捨てられたがな。トレーナーにも！」「

ジのノンチ

バケモノ!!

バーチ、「おぐれ!! ハクア!! てつだ

ラックの殴り飛ばす

バレッジアベリーハー！ラック！何しやがる！――

テツケー 大丈夫、新しいスキルが目覚めるよ。ハケアのね

! ! ! !

ハクアは咆哮をあげる。

その瞬間ノケアは

ハクア「がああつ！！

ハクアの火炎放射！効果は抜群だ！！

バービーなんて!?」

栗坂群こするスキル。その代わり精神が危ない。
「諸刃の剣」

（ネバーホンドソード）と並びけよつ。」

またじこひせ

ハクアの炎のツララ

バクフーン「ぐああつ…………！」
交響曲打君九

バクフーンは倒れた。

バレット「よつしゃ！！」

ラック「おい！ハクア。大丈夫か？」

ハクア「…………うつ……」

ハクアが倒れる。しかしそれを見透かした
ようにリースはハクアは支える。

リース「お前もスキルゲットしたか…。」

ハクア「はい…。」

リース「んじゃ戻つたらスキル報告書類を

書いてもらうからな。」

ラック「あーあれ面倒くさつた。」

ハクア「えつ……」

バレット「いいから次の階いくぞ。」

俺達は階段を登る。

テンガン山二階は水のステージだった。

To be continued

第9話 “諸刃の剣”（ネバーハンドソード）（後書き）

バレット「なんか色々比べよー。」

ラック「まず強さだね。えーと…」

ラック＜バレット＜ハクアだね。」

ハクア「学力は…」

ラック＜ハクア＜バレットです。」

バレット「んで最後は作者が好きなキャラ

ラック＜＜＜＜＜＜＜＜ハクア＜バレット」

バレット／ハクア「どんだけツタージャ好きなの！？作者！？」

第10話 “自尊心”（プライド）（前書き）

ラック「訂正：ハクアが最初ハクルになつてたけど…」
作者「間違えた。ただ直すつもりはない」

第10話 “自尊心”（プライド）

バレット「水のステージか…。」

? 「おや? 誰です。私の住処に侵入するのは?」

声がした方をみるとミロカロスがいた。

リース「お前の住処を荒らしにきたんじゃなくて俺たちはやりの柱にいきたいんだよ

そこを通してくれ。」

ミロカロス「いや、と言つたら?」

リース「無理やり通る。」

ミロカロス「ふふつ気にいりました。最近弱い者ばかりですからねえ~。あなたも弱い者じやないのを願いますよ!~」

ミロカロスのハイドロポンプ!

しかし攻撃は外れた。

バレット「おい。水タイプなら俺に…」

リース「いや確かに相性はいいが、ステージが悪い。水中戦なんてやつたこと…」

ラック「あるよ。」

リース「お前はだまれ。とりあえずここは俺がやる!」

リースのハイドロポンプ!!

効果は今一つだ!

ラック「僕も草だけど…」

ミロカロスの冷凍ビーム!

リースにあたつた!

リース「うおつ!!」

ラック「やつぱりかあ~。」

バレット「いや、お前スキルあんただろ。」

ラック「……いや。多分、僕のスキルそんなんじやないと思つね。」

「

リースのハイドロポンプ！－！

天井にあたつた！

ミロカロス「？何をやつてるので……！」

リースの岩石落とし！

リース「ふん、こちらは何万と生徒を見て戦つたんだ。いまさら…－？」

ミロカロス「やつとききましたね…。」

リース「スキルか！？」

ミロカロス「ええ、そうですとも。私の

“死幻覚”（デッドオブアイ）は私の攻撃にあたつたものは視界が狂う！！」

ラック「こいつは、やつかいだな。」

リース「…………！」

リースの目からほまだ戦意はあるようだ！

リース「お前、なめんなよ…教師としての

“自尊心”があるかぎり生徒の前で無様な姿晒せるかっ！」

リースのハイドロポンプ！からの冷凍ビーム－！

リース「くらえや！“氷河落とし”（フリーズブレイク）－－！」

ミロカロス「そ、そんな！－ば、バカなあああああ

リースWIN－！」

ラック「んじゃ行きますよ。」

リース「俺になんか言わねーのかよつ！」

ラック／バレット「はいはい、凄かつたですねー（棒読み）」

リース「お、お前らつ！－！」

To be continued

第10話 “自尊心”（プライド）（後書き）

ラック「ぐむぐむ。帰りたい。」

第11話 “喜劇”と“詭劇”、“興劇”と“凶劇”（前書き）

ラック「うわーい。僕の秘密？」

作者「うん、そろそろかなつて。
」

ラック「……はじめようぜ。」

第11話 “喜劇”と“詭劇”、“興劇”と“凶劇”

俺達は今とても長い階段を登っている。

ハクア「あとどれくらいで…やりの柱だうね。」

リース「わからねえ。でも戦う準備はしつけよ。」

ラック「もちろん…！」

ラックの驚いた顔を見て俺は

バレット「おい！ラックどうした！？」

しかし俺が問い合わせてもラックは反応しない。すると…

？「久しぶりだな。“喜劇”の“喜劇”。ラック

けつこう探したぜ。」

ラック「どうも久しぶりだね。“凶劇”の“詭劇”的ジット。会いたくなかったよ。」

ジット「俺は会いたかつたけどな。」

ジットと言われたそいつはツタージャ、ラックとそっくりだった。

ラック「“そっくり”ではなく“同じ”だ。」

ジット「そうか、元はといえ俺達は同じだつたんだし。」

ラック「うるさい。何の用できた。」

ジットはニヤリと笑い

ジット「お前のスキル、“電子回路”（アルティキューブ）を回収しにきた。」

ラック「…………。」

ラックは何も言わない。するとリースは

リース「なんだ？その電子回路ってのは」

ラック「…物質を変換するスキル。これを使って僕は自分のタイプを換えた。」

なるほど、ラックのスキルはタイプを換えるスキルかと思ったが物質を変換するスキルだったとは…。

ラック「ま、だとしても渡す気は一切ないよ。さつさと帰れ。」

ジット「そいつあ、無理だ。だつたらお前らの仲間を人質として捕つてもいいんだぜ？」

ニヤリと笑うジットを見てラックは言った

ラック「勝手にすれば？」

リース／ハクア／バレット／ジット「…？」

ラックは冷たい目で言ひ。

リース「お、おい…」

ハクア「そ、そんな…」

ラック「俺は例え人質をとられても屈しない。お前だらうとなかろうが。」

“俺”…ラックが一言はみんなにとつては普通と思うが、事情を知つてる俺は違う。

ラック「なめてんじやねーぞ？“俺”。確かに怒りや恨みの感情はお前が受け持つているが…俺が怒りや恨みの感情がないという訳ではないんだよ。」

ラックは怒る事が少ない。それは最近付き合い始めたハクアが感じている事だ。

ラックは怒りの感情を外にださない。

ただしその感情をだしてしまった場合：

ジット「はつ。倒すつもりか。」

ラック「—————」

ラックは声にならない声、人間の言葉で言ひ超音波を出す。…がそれはただの超音波ではない。…超音波を超えた超音波。

“弔怨波”（ブレイクソブラン）…！

ジット「—————くつ…！」

ジットは耐えられなくなつて吹き飛ぶ

しかしラックの“弔怨波”は止まらない

ラック「—————！」

しかしこんな高音をずっと出せる訳ない。

ラック「…ハア…ハア…」

体力が沢山あっても息が続かないなら意味がない。

ラック「ふう…すう————！」

ラックは息を吸う。そして…

ラック「—————」

“弔怨波”を繰り出す。そしてある「ことかエナジーボールを大量に作り、上に投げた。ジットは何がしたいのかわからない顔でラックを見ている。

ラック「何ボーッとしてんだ！！“新緑の襲撃”（リースストーン？ストーン）！？」

これは“流星群”を草タイプで行つたものと思えばいい。

ジット「ぐつああつ！…」

ジットはどこかへ飛んでいった。

ラック「…ふう。」

ハクア「お疲れ。」

バレット「大丈夫か？」

ラック「ああ、それにあいつが持つてた

スキルも何個か回収できだし一石二マメバトだよ。」

リース「んじや帰つたら報告書な。」

ラック「へいへい。…つとそれより、やりの柱はこの階段を登つたらいいけるぞ。さつとここうぜ。」

バレット「うん、そうだな！」

To be continued

第11話 “喜劇”と“詭劇”、“興劇”と“凶劇”（後書き）

ラック「次回人間界編（とかいながら全然人間の接点がない物語）が終わる！」

作者「括弧余計。」

第12話 元の世界に戻るけど…（前書き）

ラック、「CHC13」ありますか?」?

「作者、なん? 何々? さてケーブルホルム! ?」「ラック、『ちょいと使ってくる。』」

ラッケーちゃん」と使っていた。

バレット「……俺って主人公かな。」

第1-2話 元の世界に戻るけど…

ラック「お、見えてきたぞ！」

ハクア「あ、あれがやりの柱…」

バレット「そこにパルキアがいるんだな」

リース「よし、じゃあいくぞ！」

俺達は階段を登りきつた。すると…

？「誰だ？貴様達。」

声がした方向にいたのは、パルキア。

ラック「“異空間移動装置”によつてこつちの世界にきちまつた。

元の世界に戻して欲しいんだが…」

パルキア「ふむ、なるほど。所でそこピカチュウ。——貴様

をどこかで見た事があるようなきがするんだが…。」

バレット「……きのせいだろ。」

パルキア「ふーん？まあいい。では戻るが

どこに戻るんだ？」

ラック「四正学園つて所。」

パルキア「了解した。」

「

「

「

「

「

「

「

「

分だぞ？』

ハクア「…と、』

リース「いう、』

ラック「ことは…』

バレット「ああ！俺のセリフ！…』

明日“敬遊祭”じゃん。

第12話 元の世界に戻るか…（後書き）

ラック「今回短くない？」

作者「……次回“敬遊祭”！長編！－！」

第13話 敬遊祭で大混乱！？（前書き）

ラック「今日は長編なんだよね？」

作者「ん~？ああ そうだけど……」

ラック「ギャラは？」

作者「は？」

ラック「ギャラよこせよ。」

作者「……」

第13話 敬遊祭で大混乱！？

今日はまちにまつた敬遊祭だ。……だけど

バレット「なんで俺達がパトロール&宣伝係なんだよ！…」
ラック「まあまあいいじゃん。パトロールと偽って飯でも食えば。

バレット「そうだな…。」

? 「なつつとらーーーん！…」

突然の大声に俺は固まってしまった。

この声はもしや……

ラック「あ、バレット…逃げる？」

バレット「うん。」

俺達は世界記録も超えるかもしない速度でスタートダッシュ！
? 「こらあーーー！またなんかーーー！」

謎の大声の人物は俺達を追いかける

ラック「つるせえ！黙れ！…」

バレット「ついてくんなージジイ！」

俺達を追いかける声の正体は俺達が小さい頃近所にすんでた偏屈ジ
ジイ…エンティのフロウだ。

フロウ「誰がジジイじゃ！その前にまたかーーー！」

ラック「なんでここにいんだ！！フロウ…

…………… セン！…

…………… ラックはさん付けした

フロウ「お前達の学園祭見に来てやつたというのにーーーなんという

急け具合じや！」

バレット「あ、俺達のためならーーーのかき氷よりしふー。……………

さつをといけよ！」「…

フロウ「お前達に喝いれるまでいくか！」

ラック「愛がこもった？」

フロウ「ああ…」

バレット「…なだけに？」

ラック／バレット「割愛」

ラック「撒いたか？」

バレット「学園祭楽しみみたいのに…」

ピンポンパンボーン…

› ただいまラックとバレットを捕まえますとフロウさんから100万ポケが貰えます。皆さん頑張つて捕まえてくださいね！<

バレット「あのジジイイイイイー！」

ラック「学園祭がリアル鬼」）に…」

生徒「あー！いたぞ！捕まえるーーー！」

バレット「うわーさつそくーーー！」

ラック「くらえやー眠り粉入り煙玉！（ピカチュウ族には効かない
よう調合ーーー）」

バレット「よしーーいまの内にーーー」

俺達は倉庫の裏に隠れる。

ラック「ここなら……」

ラックのリーフブレードーーー

コースは倒れた！！

ラック「誰もいないな！」

バレット「ああ、そうだな…。ま、それよりどうする？」

ラック「…ハクアとナムルを仲間にするか…」

バレット「ハクアはわかるけどナムルはなんで？」

ラック「ナムル＝委員長＝真面目＝クラスのみんなを裏切らない…
からだーーー」

バレット「あ、ああ。そうだね…。」

ラック「ハクアもナムルも教室だからいくぞーバレズにいけるルートがあるーーー」

ハクア「それで僕達に協力を？」

ラック「うん。」

ナムル「人を売ることが大嫌いな僕に頼んだのはいい提案だよ！」

バレット「んじゃ一人は偵察係で。」

ラック「待ち合わせ場所は僕がみつけた……………つて所で！」

ナムル「そんなとこあつたんだ！」

ハクア「じゃあ……金は君達持ちだけど食料調達と偵察は任せでよ

！」

バレット「まで！」

ラック「暗号決めようよ。」

バレット「あ、いうな！！」

ナムル「じゃあ……打倒”つてきいたら”フロル”でいい？」

ラック「うん！じゃっそこで待ってるー！」

ラック「ふああ～暇だ～」

俺とラックはいま秘密基地にいる。

もう一回目の食料調達がおわり偵察状況が終わりハクア達が出ていった所だ。

ハクア達の話によると、みんな死に物狂いで探していく一人で探しているもの、パーティーを組んで探しているものがいるようだ。

ドンドン！

？「開けて！！」

バレット「打倒？」

ハクア「フロルフロルフロルうー！」

なんだか様子がおかしい

ラック「どうしたんだ？」

ナムル「はあ…はあ…フロルが…僕達の事を協力者と見抜いて…ターゲットに…」

バレット「じゃあどうするんだ！？」

ハクア「食料は沢山勝つたけどずっとここにいるって訳にはいかないし…」

するとラックが立ち上がる。

バレット「ラック？」

ラック「ちょいと偵察してくるわ。」

ハクア「ええ！？それは危ないよ！まさに

ガブリアスの大群に肉を入れるだよ！」

ラック「ジットと戦いの時スキル何個か回収したんだけどその中に“隠蔽計画”（ミラージュパーフェクトプラン）があったから

バレット「どんなスキル？」

ラック「カクレオンつてポケいるじゃん？

あいつと似てるんだけど姿を見せたままだけど僕と認識できないスキル。ま、ぶっちゃけ初使用だけと…ってくる！」

バレット「ちよつ！おい！…」

>ラック視点<

ラック（ふんふふーん 初めてのラック視点）

今僕は僕達を探しているポケタが通りまくる廊下を歩いていく。

ラック（おもしろいほどばれないな…ってあいつは…！）

僕の目の前にはこの事件の張本人、フロルがいる。

To be continued

第13話 敬遊祭で大混乱！？（後書き）

ラック「微妙な所で終わつたな！」

作者「ごめんごめん。次回に続く！」

第14話 敬遊祭で鬼のジョー? (前書き)

あら(い)すじ(書き)

まちに待つた敬遊祭!!

ラックとバレットはパトロール係をサボつて飯を食べようとするが

そこにラック達の

小さい頃いた近所の偏屈ジシイフロルに出会い追われてしまつついでに協力してたハクアとナムルも!!

第14話 敬遊祭で鬼ごっこー!?

ラック（大丈夫大丈夫。僕には“隠蔽計画”がある…）

フロル「お主。」

ラック「は、はいいー()?」

若干発音が上がった声で僕は返事を返す

フロル「ラックとバレットとハクアとナムルとループをしらぬか?」

……えつ?

フロル「だからラックと(ry)」

ラック「知りません。し、失礼します」

僕は大忙ぎで基地に戻る

ラック「あけて、ラックだよ。」

バレット「打倒?」

ラック「フロル」

ガチャ…

ラック「なあ!ループっているか?」

ハクア「いないよ?どうかしたの?」

ラック「いや、偵察中フロルに出会って話かけられたんだけど、どうやら僕達以外に

ループも探しているらしいんだけど…」

>ループ視点<

ループ「火炎放射!」

効果は抜群だ!!

ループ「な、なんだよ。こいつら。」

俺はいま俺を追いかけてくる3匹のポケを倒した所だった。

俺は普通に敬遊祭を楽しんでいると急に追いかけてきたのだ。

ループ「そ、そういうやラックとバレットを捕まえて。とかいう遊び

があつたような

!もしかしたら俺巻き込まれた!?

? 「おいーーまでーーお前！！」

急に大声が響く。声がしたまつをみるとそこには水タイプのポケモン…あつ

ループ「リース先生がビリしたんですか？」

リース「どうもこいつもねーよ！ラックとバレットの担任を受け持つているからって俺までも追われてんだーー！」

ループ「僕もそうですよ…。一体なにがビリや？…」

しばしの沈黙。

リース「そういうハクアとナムルも追われてるらしいな。ハクアは分かるがナムルはどうしてだ？」

ループ「ナムル＝委員長＝みんなを裏切らない、からじやないですか？」

？」

>基地内 <

ラック「正解である。」

バレット「…急になんだーー？」

ラック「…ん、忘れて。もう一度偵察言つてく。いい土産もつてくれるよ。」

>ループ&リース <

リース「んじゃ一応ラックとバレットを探すか。」

ループ「そうですね。今はそうするしかないです…だけビビ探します？」

デジデジデジデジデジデジデジデジ…

リース「な、なんだーー？」

ラック「ラックダブルラリアットーー！」

リース「がふうー！」

ループ「あぎやー！」

俺達の前に現れたのはラックであつた。

ループ「ラック！な、なんか大変なことになつてるんだけどーー！」

ラック「みんなを巻き込むあいつらしさ性格だ。どんだけ喝いれたいんだよ。」

リース「か、喝？」

リース「」

ハクア「逃げますか?」
「はい!」

曲の正体は歌わなくててもお

「逃げても追いかけるぞ！」

To be continued

第14話 敬遊祭で鬼!」?「...? (後書き)

ラック「おひらああつ！！」

作者「うおー？」

フロル「またんかいつ！！」

バレット「電磁砲！」

フロル「きくかつ！」

作者「... 一体なんなんだ。」

第15話 奥義“林の刀”（前書き）

作者「ラックの都合上、ついで中斷する」

第15話目 奥義“林の刀”

フロル「ふふ…逃がさんぞ…」

ラック

ラックは動かない

リース「おい！逃げるぞ！！」

ラック、いやだね。こいつを倒す！！

フロル「できるのか!?」

「アシカ、せりやんよ。」

リーフブレード一元流！

ラックー“林の刀”（ツインリーフブレード）

フルーふむ…だがそれではたおせ…」

ラックの切りつける！

フロル「ぐはっ！遠慮はないのか！！」

ラックーいつも喝入れる時遠慮無しだつたし。

ラックの高速抜き刀！

フロルはどうにかよけた！！

フロル ふうう…年はとりたくないもんじゃのう…」

フロルの火炎放射！！

ラッケは水ダイアに変化した!!

効果は今一つだ！！

アーリー - それがお主のアギルか？」

ニハツケ……違します

大河 嘘くな

西者睨みあし、今激しい攻防が繰り広げられる！

ハレバト 雷!!

卷之三

「ハハハ、アハハハ！」

フロル「な、何い？！」

バレット「やつをまでよくやつてくれたな！ラック……あめのぞ…！」

！」

ラック「久しぶりだね。」

ラックのリーフストームがバレットを包む！

リーフストームがバレットを包む！

バレットのボルテッカー！！

フロル「な！？」

ラックノバレット「雷の渦ボルトスラッシュ！」

チュツツツツド――――――――――――――――――

激しい爆発が起きた

フロル「……合格じや。」

ラック「？」

フロル「儂は実はもう死んでるんじや」

バレット「目の前にいるじyan！？」

フロル「生意氣な所は変わつてないのう。儂はお前達が心配だったんじや。……だが

お前達は色んな仲間達がある。これで安心して逝ける。」

フロルと体が薄くなつていく。

ラック「……」

フロル「もしも道が分からなくなつたら仲間を信じて……」

バレット「いいからさつさと逝けよ。」

フロル「……涙が隠せてないぞ……。」

バレットは涙を流していた。

バレット「ごみが目に入つただけだ……」

フロル「そうか……まあいい。残りの貴様達の人生に目一杯の幸あれ。

」

そういうつてフロルは消えた

バレット「人の死に触れるつてあの時以来だよ……」

ラック「……泣きな。」

バレットは声も出さない静かな声で泣いた

バレット「…………つ！」

リース「でだな！学園祭が終わつたから……次は……」
ナムル「探検隊体験。でしょ？」

リース「ちつ。そうだ。」
舌打ちしやがつた、こいつ。
所で探検隊体験つて？

第15話 奥義“林の刀”（後書き）

ラック「次回！探検隊編！！」

第16話 探検隊体験つて言ひにへる（前書き）

ラック「題名ただの感想だよな。」

作者「うん。悪い？」

ラック「悪くないけどイライラすんな。あれ？ こんなとこにサンンド

バッグが

作者「すみませんっつー！」

第16話 探検隊体験つて言いにくい

バレット「探検隊体験つて何ですか？」

リース「探検隊探検・体験隊体験…あーもう…た?い?け?ん?た?い?た?い?け?ん!…はだなあ」

間違えすぎです。

ナムル「まあ探検隊のギルド行つて探検隊の活動を体験しよう。つてこと。」

バレット「なる程。」

リース「チームは一人一組。向こうで探検隊の人とチームになるからな。えーとチームは…まず（略）ナムルとハクア、（略）んで

バレットとラックだ！」

バレット「おい！ラック一緒にぞ！」

ラック「…」

静かだと思つたら寝てたのか…。

ハクア「その体験はいつですか？」

リース「えーと…あつ…」

バレット／ハクア／ナムル「“あつ”つてなん（ですか！…）（なの！？）だ！」

リース「今日だつた 早く行くぞ。」

バレット「ばああーーーかつっーー！」

ナムル「気づいて下さいよーー！」

ハクア「周りの教室が静かだと思つたらーーー。」

「ギルド」

リース「ここから適當行動だ。死なねえーように頑張れよ。」

嫌な奴だ、こいつ！

ラック「僕達と一緒になるチームは？」

バレット「えーと…リオルのリルとイーブィのリークだね。」

ラック「いつもときには遅刻つてよくあるよね。」

バレット「ないな…」

するトリオルとイーブィがこちらにきた

リル「すいません…遅れました。」

バレット「…」

本当にありやがった。ラックをみると…

オタマロ人形こっちに向いている。うぜえ

バレット「あ、大丈夫ですよ。こっちも今来た所ですから…」

To be continued

第16話 探検隊体験つて言いにくい（後書き）

新キャラ登場！！

リル「ここ…話しても大丈夫かな？」

リーク「大丈夫よ。というか私が初めての女キャラらしいわね…」

リル「男っぽい名前なのにね。」

リーク「次言つたら す。」

リル「すみません」

ラック「せつかくの後書きだから自己紹介すればよかつたのに…。」

作者「主人公よりも先に後書きにちゃんと出れるとはね…」

ラック「あんたがツタージャ好きだからだろう。」

作者「じゃあ締めは新キャラ2人に！」

ラック「バレットでさえできないのにw」

リル／リーク「次回も見て下さい！！」

バレット「…………言いたかった…」

第17話 探検隊体験のはじまり！！（前書き）

リル「…………また？」

リーク「さすがに……。」

ラック「僕はほぼ毎回だよ。安心して！」

作者「…後書きにバレットだしてやるか」

第17話 探検隊体験のはじまり！！

ラック「あ、あなた達がリルとリークですね。僕はラックです。んでこっちのオタマ口人形持つてるのがバレットです。」

いつのまにかもっていた。

リーク「あ、よろしくおねがいします。早速ですけど依頼受けますよ。」

バレット「どんなのですか？」

ラック／リル「生死を共にする仲間なんだからタメ口でいいでしょ！」

バレット／リーク「あ、そうだね……」

リル「んじゃこの依頼でいいか？（ラックが選んだ）読むぞ…

依頼主…ランドロス

内容…いたずらっこボルトロとトルネロをどうにかして下せ。私はもう疲れました。

ランク…Eランク

バレット「Eランクじゃないだろーーー！」

リーク「私もさすがにそう思つ。」

ラック「よし、やろう。」

強制決定。

（雲泥の牢獄）（実際はありません）

リル「牢獄だけ怖い雰囲気だね…」

天氣があれになつた。

ラックは氷タイプになつた。

バレット「するーーー！」

ラック「そちらへんに脱走囚いるらしきからきをつけりよ。」

リーク「あ、ガブリアス…」

リル「最初から！？」

ガブリアスはあらねの影響で（効果抜群のよつだ！…）1200のダメージ。

ガブリアスは倒れた。

リークに4のダメージ！

リルに3のダメージ！

バレットに4のダメージ！

バレット「効果抜群だとそうなんの！？」

ラック「なあなあ。今考えたんだけどよ」

リル「うん。どうしたの？」

ラック「みんなのタイプ、氷タイプにすればいいんじや…」

バレット「早く気づけ！さあやつて！…」

リルは氷タイプになつた

リークは氷タイプになつた

バレットは氷タイプになつた

リル「これであられの影響は大丈夫だ。」

リーク「あ、階段！！」

ラックは縁グミを拾つた。すぐさま食べた

バレット「俺も欲しかつた…」

（2F）

モンスターハウスだ！！

リル「ついたとたん！？」

ラック「仕方ない…」

ラックはワープ玉を使つた！

ラック、リル、リーク、バレットはどうかにワープした…！

ラック「さてと…」

ラックはあつまれ玉を使つた！！

リル「なるほど…」（うゆう作戦だつたのか…）

ラック「よし！階段探すぞ…！」

リークはオレンの実をゲットした。

リル「どこにあるんだろう?」

ラック「あれ?あれカクレオン?」

カクレオン「いらつしゃ~い。」

リーク「カクレオンをお店だ。」

ラックはセカイイチを拾つた

カクレオン「セカイイチは450ポケです」

ラック「他のも見せて。」

ラックはカビアラ~を拾つた

バレット「なんであるんだよ! ! !」

カクレオン「合計で1200ポケです。」

ラック「ほい。」

カクレオン「まいど~」

リル「じゃあ行こうよ...」

リーク「階段あつたわよ! ! !」

バレット「なあラック...」

ラック「何?」

バレット「セカイイチくれない?」

ラック「無理。」

(3F)

階段はこっちにありそうな気がする。.

リル「誰?」

リーク「ラックからもらつた透明グミもらつたら...」

ラック「わかりやすいからいいじゃん。」

バレット「セカイイチ...」

ラック「欲しいの?」

バレット「うん!頂戴!いやくだせ!」

ラック「だか断る! ! !」

バレット「ひどい! ! !」

リル「まairin~くら~は僕があげるから...ね?」

バレット「ありがとーーー！」

リーク「ところでここ何階あるの？」

ラック「Eランクの意味わかるでしょ。

———3階。あいつらがいんのは……」

（雲泥の牢獄最上階）

To be continued

第17話 探検隊体験のはじまりー！（後書き）

バレット「やつた――――！」
ラック「やつとでれたな。あ、次回もよろしく。作者のやる気がないんで後書き終了だぞ！」
バレット「え、ちょっとまつ――」
プリツ

第18話 ヴィトルネロス&ボルトロス!!（前書き）

ラック「ここは私の所になりました。この場でたいのならば…。
あつ今作つた小説かくね。」

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

ここはポケルー学園の倉庫裏。

ここにいる沙懺黎須君は告白を受けていた。

「ずっと好きでした！付き合つて下さい」

「え？ ぼ、僕でいいの？」

「はい！」

「だが断る…！」

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

バレット「酷いな！ こいつ…！」

ラック「では本編をどうぞ…！」

第18話　VSトルネロス&・ボルトロス！！

? 「誰だ？ 貴様達！？」

野太い声が部屋に反響する

ラックー探検隊の者だ！えーと、依頼に基づいて貴様達をふちのめす！！

リル「違う！ ちょっと違う！」

貴様達には「

ラック（僕はラック。）

?/?2/?バレッタ/?リル/?リケン!セリハの懸念でレナ事務

す。
レ

ホリ - ハルヒコ

「ラック」「いい風だ。」

トルはあああつづ

テラハは效果がない。シナ

バレット「いてえ！」

リーケーあしゃあわ、お捨てたオレンジの実を……

ラッシュ・バーナード「プチッ

リーク「何かきれちゃいけない音が…」

ハレの日 おめでたすハリウッド

雷

ラックのエナジー・ボールエナジー・ボーリエナジー・ボーリエナジー・ボ

－ルエナジー ボールエナジー ボールエナジー ボールエナジー ボール

エナジー ボールエナジー ボール！！

トルネロスとボルトロスを倒した！！

リル「僕達の出番無し…」

リーク「凄い強かつたよね。」

ランドロス「ありがとうございます！」これがお礼の黄色グミです。」

バレット「うああ～～～。食べていい？」

リーク「今回役にたちましたからね。どうぞ遠慮なく。」

ラック「12000ポケの内11880ポケは回収されんだろう？だから…一人30ポケだ。」

バレット「ねえ？このあとどうすんの？」

リル「一回の依頼がクリアしたらそこで自由なんですけど…食事でも行きますか？」

ラック「そうだね。どこかいいところあるかい？」

リーク「うーん…ここらへん少ないから…

浜辺のラーメン屋はどう？」

ラック／リル「あーあそここのチャーシュー麺美味しいよね…」つてあれ？」

今声ふたつじゃなかつた？

リーク「ラックここに来た事あるの？」

ラック「僕こここの卒業隊員なんだか…」

リル「へ？」

リーク「な？」

バレット「はい？」

うん、整理しよう。

ラックはそのラーメン屋を知っている。

ラックは「」の卒業隊員

元隊員だつたためルールなどしつっている。

（分け前も知つてたし…）

ラック「ま、今は学問に集中したくて卒業したけどね。」

リル「そ、そんなに簡単なの？」

ラック「あいつがいたからね。」

リーク「あいつ？」

ラック「うん。今はあいつは医者かな。

なりたつて「いつてたし。いやあの兄弟はどうかな？店でも開いてるのか？——

ローズとライトとレフト」「

To be continued

第18話 ヴィトルネロス&ボルトロス！！（後書き）

リル「ローズとライトとレフトって誰？」
ラック「昔組んでたパーティー。ローズはロゼリア。今はロズレイ
ドか：んでライトはプラスル、レフトはマイナン。詳しくは次回！」

第19話 気まぐれで決まる運命（前編）

「ハック」「やつれいじぬき」

第19話 気まぐれで決まる運命

バレット「ローズう？」

リル「ライトお？」

リーク「レフトさん？」

リークは礼儀正しいようだ。

ラック「うん。ねえリーク、リル。ここいらへんにひつそりとした初めての人は近寄り難いけどすっごく有名な病院ない？」

リル「いや、もうあそこしか…」

ラック「じゃあそこに連れてって！」

陰気な雰囲気の森の片隅。そこには怪しい雰囲気を醸し出した病院があつた。

ラック「さあ。入るよ」

リーク「正直言つてここ苦手…」

バレット「なんかすごいなあ」「ガラッ

?」「おや…いらっしゃい。つてラック？」

ラック「今日は休みだよね？ローズ。」

ローズ「ただけど…後ろの3人は？」

バレット「あ、バレットです。」

リル「探検隊のリルです。」つちは…

リーク「リークです。」

ローズ「で、何の用で来たんだい？」

ラック「いや、探検隊体験で久しぶりにこつちきて。久しぶりに会おうかなつて」

ローズ「探検隊…ああ、懐かしいね。6才にして卒業記録を残した

ラック。君が最年少なのにリーダーだったね。」

リル「…そりいや、親方がそんな記録があるって聞いた…」

親方「世界には凄い子がいるんだ。4才にして、ギルドに入門。その2年後卒業。最初は一人でどんな依頼もこなして…。卒業の理由は“飽きた”から。…卒業試験をあんな難題にしたのに…」

リル「その難題って？」

親方「…天才の科学者が残した暗号をたつたの一時間で…。あの子は天才じゃなくて賢者でもない…。“神の化身”なんだろうね…」

バレット「そういうやラックとは2才からの友達だったけど途中、証拠も痕跡も理由も残さずどこか行つたもんね…」

リーク「凄いです…」

ローズ「…昔の話、聞くかい？」

ラック「言わなくても言つがな。…

〔ラック（4才）視点〕

僕は故郷を抜けだした。自分でいうのもなんだか僕は気まぐれだから…。故郷にいるバレットだけが少しの不安。

ラック「さてと…どうしようかな。」

?「君、何してんの？」

僕の横から声が聞こえた。しかし姿は見えない。

ラック「…旅ですよ。あまりにも故郷が暇なんで思いたつて、抜け出した気まぐれ者ですよ。」

?「へえ～君なんて名前なの？」

ラック「ラック。」

口ウ「僕は口ウだよ。あそここの崖のてっぺんにあるギルドの親方口ウと名乗ったポケモンは全体がピンク色の――//コウだった。」

口ウ「ところで君行くあてとかあるの？」

ラック「ないですよ。まあ世界の色々な所を見て周りたいですけど

ね
「
ロウ」じや
あ

僕のギルドで探検隊にならないか?」

To be continued

第20話 ラックギルドへ入門

ラック「…探検隊になるためギルドへ入れ…と。」

ロウ「うん。親方推薦だし期待のルーキーになれるつて！！」

ラック「2つ名とか肩書きとか嫌いなんだかまあいいですよ。食事と住まいを確保できれば。」

ロウ「じゃ！決まりだね！！」

ロウ「といつこと新しく入ったラック君です。みんな仲良くな

」「

みんな「はーい。」

僕が入った事にみんなは驚いた。理由は簡単。親方の推薦だったからだ。

だからこそ妬まれることもあった。

ある日の事…僕は掲示板をみていた。

ラック「今日はどんな依頼受けようかなあ

久しぶりにあのラーメン屋いって情報交換しようかな。」

僕が今日の予定を考えていると

?「おーーーい。」

ラック「あれ？どうしたんですか？ソウルさんとシルマさん。」

ソウル「お前にこの封筒渡してくれって。

俺はパシリじゃないのに…。」

ラック「…誰からですか？」

シルマ「ブーバーでしたよ。」

ラック「ふうん。ありがとう。」

僕はその封筒を開ける。内容は…

「助けて下さい。今僕は天空の火山にいます。しかし強い敵に襲われ動けなくなりました。お礼は弾みます助けてください！」

僕はすぐさまそこへ向かった。

：しかしその5秒後、お尋ね者の掲示板が更新されその中にブーバーが混ざっていたのは僕は知らなかつた……

（天空の階段頂上）

ラック「草タイプだからこゝきついわ～炎か飛行ばっかり…。それよりここ頂上だよね？依頼人は～」

僕は辺りを見回す。するとロゼリアが倒れていた。

ラック「大丈夫ですか！？」

？「あ…た、探検隊の人、で…すか。な、なぜこ…にいるつて…わかつ、たんですか…」

ラック「え？ 依頼したのあなたでしょ？」

？「？な、なんのこと…す？今僕は…まんぞ…くに体は動かせません…し、救助依頼は…だすことが…で、できません。」

そして僕は氣づく。嵌められたのと殺氣、（どつちか）というと熱気（？）に。

？「くくく、まんまとだまされたな。貴様の墓だ！」（は…）

ブーバーの火炎放射！！

ラック「うわ！（よけたらロゼリアにあたる…なら…）」

ラックのリーフブレード！

火炎放射を叩き斬つた！！

ラック（見た目以上に重い！）

ブーバー「はつ。炎タイプが草タイプに勝てるでーども？」

ラック「…ふう。じゃあ…（小声）ロゼリアさん耳塞いでください。」

ブーバー「何をするきだ？」

ラック「“弔怨波”！！

ブーバー「ぐつぐあああああああああ…！」

ブーバーを倒した。

ラック「依頼達成。あ大丈夫ですか？えーと…」

ローズ「ローズです。」

To
be
con-
tinued

第21話 ラック仲間作る（前書き）

ラック「前書きを 最初にかかず 後に書く。」

作者「わるいかな べつにいいじやん そんなこと。」

ラック「それならば あなたの命 今消える。」

作者「私が悪かった。」

「

第21話 ラック仲間作る

ラック「ふーむ…。僕はこのブーバーの策にまんまと嵌められて今回報酬無しつてことか…。まあ助けられたから…………！」

そうだ、とラックは呟き、ローズのほうに近寄つて「こう言つた。

ラック「君が仲間になつてよ。それが僕の今回の報酬つてことで。そしてローズはこういつた。

ローズ「私どもは代々主君に仕える種族。それ故にあなたにすべてを捧げよう。……すみません。代々の掟でこう言わなきゃいけないんです。」

ラック「いや、それより君つて8才だよね～？学校は？」

ちなみに言つておくがこの世界は人間界と同じで6才から12才までが入る学校を小学校。12才から16才までが中学校。高校、大学と続いていく。

ローズ「僕がいる種族は学校に行けないんですよ。これも代々の掟です。」

ラックは少し疑問を持つた顔をして言つた

ラック「じゃあそんな種族が何故ここに居て倒れていたんだい？」

ローズ「それは…簡単ですよ。マゼンダの羽を求めてたんですよ。」

マゼンダの羽。これは炎を司る羽である。

ラック「…マゼンダの羽。でもそれをゲットする必要はどんな種族でもないと思うから君の意志？」

ローズ「そうです。別にこれといった理由はないんですけど。」

ラックは謎が解けたようだ。

ローズ「それより早く帰ろ。」

ローズ「…ええ、そうですね。」

ラック「敬語禁止」

ローズ「…わかつた。」

といろかわってギルド。

「あれ、ラッ君、ラックのことその隣の人だれ？」

ラック「僕の新しい仲間だよ。」

「君そんな喋り方じゃないだろ。…………まあ名前は？」

ローズ ローズです。

ズ う 」

ラック一気にしないでね。癖みたいなもんだから。

口一ズ一あ、ああ…うん。

田ウ一それより。ラツ君がお土産持つて帰つてきたし……みんなし
ゅ―――――――「ほつ」「ほつ」――

一一一一一一一一一一

ラック「途中むせたね。」

ヤヨイ「どうしたのですか?」

こいつはヤヨイ。一人称は拙者。ザングースね。

「ふわわ／＼なーにー？」

この子はロール。一人称は私でエルフーン

シルマ「どうした、どうした？」

あとはめんどい（りや）都合上都

口ウ
最近。ブラック機関とホワイト機関がぶつかり合う、という

噂がある！！

アーティストによるアーティスト

シナリオノミクス

ヤヨイ「謹著 不安である。」

「ラック」「腹減つた」。

「え？ 何機関？ ホワッケ機関？ ？」

ロール「ふ、わわ～…」

若干2名常識外れのことを言つたが気にしないでくれ。
ローズ「その～なんちゃら機関つてなんですか？」

To be continued . . .

(微妙な所で終わったのは気にしないで！)

第22話（前書き）

第22話しかないのはわざと。

第22話

「 「 「 「 「 は？」」「 「 「 「
4人同時。ちなみにラックとロウはわかつてた、という顔をしてる。
ラック「ロウさん。もしかしてローズが血罪族つてことを知つてた
んですか？」

ロウ「もちろん。だつてその一族にはとある特徴があるんだ。」

血罪族：それは犯してはいけない犯罪を犯した“乱心一狂”と呼ばれる一人の大犯罪者の関係者が呼ばれる名前。
その一族は差別、偏見は当たり前のこと。

住む所までも決められていた。

シルマ「ブラック機関は財力を収めるんだ。ホワイト機関は権力。
んで忘れてはいけないのは… 崇迅機関、罪を収める。」

少しローズの顔が曇る。

ソウル「だけど… 財力と権力。合体ではなく激突なんかしたら…。
一体どうゆうつもりなんだ… レシラムにゼクロム。」

ロウ「噂だし気に留めるだけでいいよ。」

ラック「そうだね。」

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

リーグ「ちょっと待つてよ。まずローズさんは血罪族？そんなの聞いたことありませんし、二つの機関については知つてますがそんなこと起きたことは、公になつてしません！…」

ラック「…やべつ。」

ローズ「…やばつ。」

バレット「おい… 何があつた？」

ラック「このこと話しちゃ駄目だつた。」ここでおしまい。」

リル「え、ええええ！？逆に気になるよ！？」

ローズ「ま、血罪族についてはその“乱心一狂”が言つた言葉で差
別はなくなつたんだ」

リーク「その言葉気になる……」

ラック「手紙でだけどね……（解読したの僕なんだよね……）えーとだな……解読文だと……」

“我激怒。我良殺、然我周巻込永久続成、君達物世界滅亡。”（私は怒っている。私を殺すのはいい、しかし私の周りをこのまま巻き込むのなら君たちの世界は滅びるだろう。）

ローズ「“乱心一狂”の恐怖はみんなが知っている。だから崇迅機関はその罪をもみ消したのさ。」

リル「崇迅機関……」

ラック「でもね、公には発表してなかつたけど、実はその文には続きがあるの。それに――ローズへ向けた手紙が。」

ローズ「え？」

ラック「だからこそここに来た意味がある。読むよ。

“我薔薇親。然事隠。何時此文訳來願。我後悔無、然正直言。主心配。主此文讀其頃我死亡多分……

To be continued . . .

第23話 繰り返す動画（前書き）

「ラック」「P.O.C.R」の毎日もよひじへねー。」
作者「こいつでも宣伝かい。」

第23話 隠せぬ動搖

“主強多分。我生、又会願。（訳してみよー・ヒントは何時はなんときつて読むからいつかって意味）”

ローズ「“乱心一狂”が…ぼ、僕の親？」

バレット「そんなこと言つていいいのかよー？」

ラック「…だつて、今言わないでいつ言つの？」

ラックの言葉が終わると後ろのドアが…

――消えた。

リル「え！？」

リーク「な、何！？」

? 「若きツタージャよ。我が文をよくぞ読み解いた。」

ローズ「あ、あああ…！」

そこにいたのは…赤く、赤く染まつた…

――ファイヤー。

バレット「お、おかしいって！炎タイプから草タイプが生まれるなんて！！」

? 「信じられぬか？」

ラック「どうもです。“乱心一狂”…フリー^ズさん。」

フリー^ズ「おや？分かつてるのか？」

ラック「最後の文に書いてありましたよ。」

“我名…>止動<”（実際の文　? ? ? ? ? ?）

“動き”が“止まる”。色々考えましたけど…

ゲームがフリー^ズすると動きが止まる。

こう考えました。

フリー^ズ「これはあっぱれじゃ。但し、我的能力を知らんよひじやな。」

ローズ「完全を超越した物事”（パーフェクト？オブ？エンド）」

フリー^ズ「！」

ローズ「物質を消すスキル。」

フリー^ズ「ふーむ……こやつら2人の力は侮れんのぉ……。消しますか。」

く、狂ってる。心が乱れている……！

だから“乱心一狂”なのか！！

ラック「そうやすやすとは消させませんよ。物事は常に幸運でなくちゃいけない。不正で奪った（ゲット）した能力なんてできません

」

フリー^ズ「言うのぉ……だが貴様に何がわかる……！」

ラック「わかりますよ。

僕だつて……

不正^{チート}で固めた、

不正なほど^{チート}の力“殺さず生かさずの永遠の苦心”（デッドオアエン

(ド)

が押しつけられましたから。」

To be continued . . .

第23話 隠せぬ動搖（後書き）

次回完結！

とても残念な終わり方です

ラック「お前の考え方じゃねーか。」
(ラックはタイトルにつっここんでます。)

第24話 運動会つてはつきつ言つて嫌いなんだよねええええええええええええええ

ラックはそういうて僕を睨みつけ「う言ひ

ラック「いい加減起きろ！！」

バレット「は？」

よく見てみるとリルもリークもローズも、
ラック以外誰一人いなかつた。

「いや、『ラック以外』ではなかつた。

リース「つたく、運動会の説明してる時いきなり倒れやがつて…」

ハクア「あーよかつた。」

バレット「え？俺に何が？」

ラック「だ〜か〜ら〜君が自称最強の教師が運動会について話して
ると君が倒れたんだよ。」

リース「おい、待て！俺はそろ名乗つてねえ！」

バレット（じゃあローズとかリルとか…）

バレット「なあラック。」

ラック「どうした？」

バレット「ローズつて知つてるか？」

ラック「昔のギルドの仲間だが…」

正夢かなあ？

ラック「それより明日は運動会だぞ。持ち物は（以下省略 だぞ。）

バレット「へいへ…明日…？」

ラック「明日。」

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

今日はまちに待つた運動会…じゃねえよー。」

バレット「ちくしょー。暑過ぎるー」

ラック「あ、バレット。」

バレット「おう、ラック。」

ラック「君が出場する競技言い忘れたから今言つね、全部。」

バレット「うん。」

ラック「わかつた？」

バーチナルマジックは一見珍らしく思える。

ラジオ「え?」全巻01。

גָּדוֹלָה וְעַמְּדָה

味じやなくて

ラック「恋、全ての競技出場だ。」

ちなみに四正学園の運動会の競技は、

1'100m走（ちなみに体格が近い者同士でやるぞー！）

2 1500m走行（上と同じ。）

3 繼

4 バトつちやえ

先人と國々

色をなすと見ゆるは闇金

卷之三

ラリヤ「バニヤー」
アーティスト・アート

「バーチャル现实」の言葉が、今や一般的な用語となってしまった。

今日もまたバレット大声が響く。

おじさん、お姉ちゃん、バレット君がまた呟んじゃな。

To be continued . . .

はいつ！見事な残念な終わり方ですね！

それでほれよくなつ

次回も見てね♪ by ラッケ

第25話 運動会で熱血な奴のトランションヒットは正直面ハ画面ベタ

バレット「長いわー題名ほんま長いわー」

ラック「空白除いて64文字。あとバレットそんなキャラじやなか
つたあー。」

バレット「ボケにボケ重ねるなーー！」

ラック「え？ ボケだつたの？ 空氣語（ザ？ ハー）の新しいキャラ
作りかと…」

バレット「す～ん…」

作者「たまに“バレット”って“バレット”って打ち間違い易いん
だよね。」

ラック「無理に入らなくいいから。んじや……あ～バレット、
本編ゴールやつていいで。」

バレット「え！ ？ いいのー？ ジヤあ…

本編へぎよつ…どうれ…

作者「逆に凹んだ…」

第25話 運動会で熱血な奴のテンションひつじの正直面ついで面倒くさ

リース「今日は運動会だぜ――――――」

リースの大声が教室に響く。

みんな「いやつはおおおおうう――！」

ラック「永遠に黙らせてやるうか……」ボソッ

ラックは何故だか運動会が嫌いらしい。

小学校の頃は（ちなみに名前はエシャロット小学校。泣きたくなる。）運動会となるとラックは“旅に出る”的張りだつた。

ハクア「はあ――」

バレット「ハクアも気が乗らないのか？」

ハクア「うん、もう家帰りたい――」

リース「そこの鼠と豚と蛇！早くしろ――」

バレット「鼠い？」

ハクア「…豚あ？」

ラック「…蛇い？」

ハクア／バレット／ラック「さて誰のことやう。」

リース「お前らのことだ―早く来い――」

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

放送委員「では運動会はじめるぜえ――司会は放送委員のマリルのモルトと――」

ラック「放送委員長のラックです。」

バレット「お前委員長だったのかよ！？」

ラック「はい、第1競技は100m。ん？えーと作者の都合でプログラム1・2・3はとても激戦をしたつてことで…はい第4競技。

バトルトーナメント。」

みんな「納得できるか！？」

ラック「しようがない…。ア？ラツア？マコリシイ？ツアイハマ？

ラアアツツク！――

生徒1 「100m走お前速かったよな。」

生徒2 「綱引きでさ、あいつ……」

バレット「まじかよ…咄嗟に耳ふざきました。」

ハクア「?何がおきたの?違う所行つてた。」

ラック「次回は…次はバトルトーナメントだぜ。」

To be continued . . .

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0420z/>

バレット学園日記！！

2012年1月10日21時46分発行